知事コラム　佐竹敬久のさぁ、やるど！

そろそろ出始めた急激な技術革新への憂慮

アメリカで「人間の仕事がなくなる日」という小説が売れているそうです。

技術革新により、人工知能化したコンピュータやそれを搭載したロボットが、従来の人間の仕事をこなすようになり、人間が手を下す仕事が少なくなるという内容だそうです。

また最近、自動運転の車の開発が進んでいるとの話も多く耳にします。

当分は緊急時のための運転者が同乗し、高速道路など自動運転サポートシステムのある一定の区間を、ハンドルから手を離しても安全に走行するという限定的自動運転車ですが、運転者なしに目的地まで運んでくれる完全自動運転車の初歩的な実証試験も開始され、いずれは完全自動運転車も出現するであろうと言われています。

さらに、最近国内で小説家が一定の基本状況設定を行い、コンピュータがそれに基づき小説にするという試みもなされていますし、囲碁の世界ではコンピュータがプロの棋士に初めて勝利したというニュースもありました。

いずれにしても、コンピュータは日々進歩を重ねており、いつかは映画の世界ではすでに登場している、向上心や感情を持つコンピュータ、すなわち人間の脳と同じ働きをするＡＩ（人工知能）が出現するであろうと予測されています。

ところで、面白いのはこの高度な人工知能の出現やそれをベースにしたロボット、あるいは情報通信技術の飛躍的向上などにより不要になる職業です。

あるコンサルタントからは、ここ２０年位の間に現在の職業の半分は、これらの進歩によって、いらなくなるという試算が出ています。

例えば、事務系では定例的な事務作業者、工業系ではラインの繰り返し作業工員、農業系では単純農作業者、サービス業系では運転者、警備員、受付や案内係、さらには通信によるコンテンツダウンロードの進展により、ＤＶＤなどハード媒体を扱うレンタルビデオ店のように、業種そのものが消える・・等々、いずれ多くの分野で人がいらなくなったり、おなじみの業種が消え去ることになるということです。

逆に、工芸などの作家や芸術家、芸能人、スポーツ選手、あるいは調理人など特殊な技術・技能を持つ人間など、その人の作品や個性、行動そのものに価値を求める業種や職業はなくならないだろうとされています。

そうなれば、失業者が多くなり、働く人が少なくなり税収が減るので、ロボットに税金をかけて、失業者に給付するという説まで議論されるようになりました。

地方創生で盛んに雇用の確保と叫ばれていますが、将来を見通すと技術革新が必ずしも人間の幸せに結びつくのかという疑問も沸いてきます。

ところで、知事という職もいらなくなるのかな？